

### 地域に学ぶDX、ICT実践教育 大学院副専攻“e-PICT”

現場で使える思考・技術を  
基礎から身に付ける

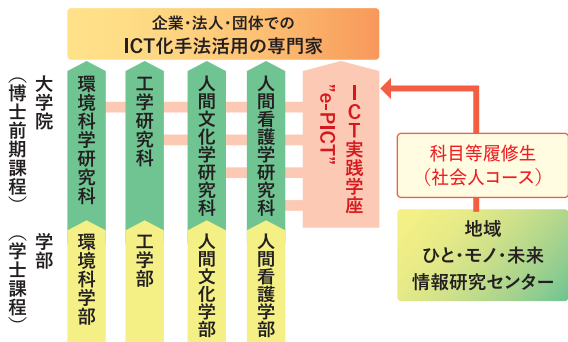
滋賀県立大学は、地域のDXやICTの中核を担う人材を育成することを目的に、2018年に大学院副専攻ICT実践学座“e-PICT”（以下“e-PICT”）を開設した。最新のDX思考とICT手法を、実習を通じて基礎から学ぶ教育プログラムである。DXやICTといっても、対象は情報系の学生だけではない。文理を問わず、すべての大学院生、そして社会人が“e-PICT”に参加できる。

生きた課題に向き合う  
実践的な学び

“e-PICT”は、座学だけでは身に付きづらいDXやICTの手法を、地域の中で学び、現場で使える技術として習得することを旨とする。現実の課題に受講生自らが向き合うことを重視し

ているのだ。ここで、実際に行われている実習の例を紹介する。その1つがVRやモーション

キャプチャーを使用した動作解析だ。危険作業（溶接、フォークリフト操作など）を解析することで危険因子が明らかになり、リスクヘッジにつながる。また、伝承の難しい熟練技術（彦根仏壇や信楽焼の製造）をデータ化することにより、伝承のハード

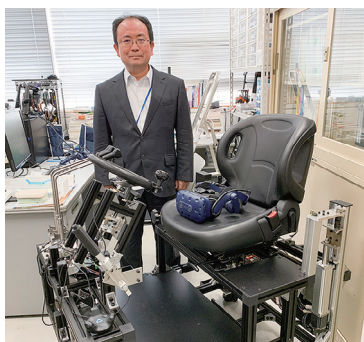


“e-PICT”の概要

ルを下げることも可能だ。そのほかに、看護・介護分野のロボットや補助具の開発、ドローンを使った獣害対策、果物の完熟度合いを調べる色彩センサーの開発など、実習課題はさまざま。これらの多くは、共同研究先から提供される。生きた課題から生まれる学びである。課題の解決を通して実務経験を積むと同時に、DX思考とICT手法が身に付けられる。実習以外にも、バラエティー豊かな授業が開講されている。データサイエンスや人工知能の数学的基礎、人工知能による画像認識、テキストマイニングの手法を身に付ける科目などだ。さまざまな角度からICT技術に触れ、数理・データサイエンス・AIの内容をリテラシーのレベルを超えて学ぶ。この内容は、“e-PICT”担当教員の杉山裕介准教授を中心に編成し、数学的な裏付けも考慮されている。さらに、“e-PICT”は社会人コースも開講している。幅広い職業の人々へのリカレント教育、持ち込まれる地域課題の解決、実務作業のDX、ICT化などさまざまな役割を担う。実習テ

マとして自身の仕事に関わるものを自ら持ち込むこともできる。各々に沿うプログラムで地域のDX、ICT教育に貢献を

“e-PICT”には、社会人コースも含めてこれまで50人以上の学生や社会人が在籍してきた。地元企業との共同研究や、実際に地域課題の解決につながる例も少なくない。社会人受講者の中には、実習をきっかけに博士後期課程へ入学した例もあり、働きながら博士号の取得を目指す人の窓口にもなっている。基礎から専門的に、実践的にとさまざまなレベルで学ぶ“e-PICT”。DX、ICT教育による地域への貢献に、ますます期待が高まっている。



橋本宣慶准教授とフォークリフト訓練シミュレーター